

【会議内容等】

回	会議名	日時・場所	参加者数・主な内容等
第1回	第1回課題調整会議	5月30日(火) 14:00~15:45 区役所第3仮庁舎 3-3会議室	参加者数 11名 (部会員) 主な内容 ◎29年度の活動について ○課題調整会議 5月30日(火)、2月6日(火) ○相談支援事業所連絡会 年2回開催 各相談支援事業所へ実施したアンケートを確認し、今年度の連絡会の内容を検討。 ・1回目 7月27日(木) 内容 架空の事例を元に各事業所の相談支援専門員が作成したサービス等利用計画を持ち寄り、計画の書式や書き方、アセスメントの視点や専門員としての考えを発表し検討する。 とりまとめ役は「障害者福祉課」 ・2回目 1月25日(木) 内容 地域移行・地域定着について又はアセスメント力を高めるための内容を行う。とりまとめ役は「ふれあい」 ○精神分科会 10月か11月で調整。保健所の出前研修と共催予定 内容 医師等病院関係者を招聘してクライシスプラン等について学ぶ。 ○高齢者分野との連携 (就労支援部会と協力) 内容 高齢・障害ネットワーク会議開催のために準備会を立ち上げる。 今年度 高齢・障害ネットワーク会議年2回程度開催予定。 ○福祉計画部会に部会員派遣 福祉計画部会に東尾副部会長を派遣している。基幹相談支援センター作業部会にも参加
第2回	第1回相談事業所連絡会	7月27日(木) 14:00~16:00 保健所講堂	参加者数 22名 (相談事業所9事業所及び部会員) 主な内容 ◎事例検討、研修 区が作成した架空の2事例(大人1事例、子ども1事例)を元に各事業所の相談支援専門員が作成したサービス等利用計画を持ち寄り、計画の書式や書き方、アセスメントの視点や専門員としての考えを大人と子どものグループに分けて発表し検討を行う。
第3回	第1回高齢・障害ネットワーク会議	8月23日(水) 16:00~17:30 ひがし健康プラザ	参加者数 35名 (高齢関係20名 障害関係15名) 内容 事例の提供をうけて、高齢・障害部門担当者のネットワークの構築(顔の見える関係作り等)を行う。今後も継続していくことで合意。
第4回	第1回精神ネットワーク会議(保健所出張研修後)	11月7日(火) 15:45~17:05 保健所講堂	14:00~15:30 保健所出張研修 テーマ「統合失調症の理解と支援～危機介入技術の向上～」 第1回精神ネットワーク会議 参加者数23名 内容 テーマ「(保健所出張研修を踏まえて)各関係機関の危機的状況

			<p>の捉え方・対応・課題について考える。」</p> <p>目標「危機的状況に対する支援について支援者間で共通認識を持つ。」</p> <p>3グループに分かれてグループワークを行なった。</p>
第5回	第2回相談事業所連絡会	<p>1月25日(木)</p> <p>13:30~16:00</p> <p>保健所講堂</p>	<p>内容 参加者数 30名(相談事業所9事業所及び部会員、関係者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行の概要及び取組について学ぶ <p>東京都施策推進部サービス支援課、東京都立中部総合精神保健福祉センター 地域体制整備担当、地域移行体制整備支援事業コーディネーター、長谷川病院の皆さんに講師を依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各相談事業所の状況・意見交換(相談事業所9事業所の報告等) <p>主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して、精神の地域移行の支援の流れについては理解できた。 ・長期入院していた方が地域で生活するためには様々な壁があり、時間がかかるケースがあることがよくわかりました。それでも本人の気持ちに寄り添って関係者と協力して支援を進めることで着実に退院に向けて進めることを知り、大変参考になりました。 ・病院の様子や取組について参考になりました。 ・他区の計画相談も多くなっている。 ・高齢サービスに切り替わる時にケアマネ等新しい支援者とのつなぎの支援に時間をかけて行っている。 ・障害児入所施設は18歳で卒業しなければならないが行き先が決まらず大きな問題になっている。
第6回	第2回課題調整会議	<p>2月6日(火)</p> <p>14:00~16:00</p> <p>区役所第2仮庁舎 2-1会議室</p>	<p>内容 参加者数 13名(部会員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎平成29年度相談支援部会活動の振り返り ◎相談支援の課題等について ◎平成30年度の活動内容について ○相談支援の課題について ・人材の確保、事業所を増やすこと(サービス等利用計画の作成率が100%に近づいたことはゴールではなく相談支援がスタートしたということ。児童の計画作成は2,3月が極めて繁忙。どの事業所も少ない人数で他事業と兼務している状況) ・児童の課題を検討する場(現在、放課後等デイと児童発達を中心に既存のネットワークはあるが、自立支援協議会との連携はなし。) ・地域活動支援センターが増えること(地活利用で対応できる生活支援や信頼関係構築のしやすさがある) ・困難ケースの事例検討が部会でできるとよい。 ・区と共同で相談支援の手引きを作成できるとよい。(区内事業所全体の底上げ、事業所の守備範囲を整理し適切な利用者案内につなげるため) ・基幹の立ち上げに向けて、今後の仕組みづくりを検討できるとよい。 ・部会の会議準備にかかる労力が大きい。 ○30年度相談部会活動について検討 ・相談支援事業所連絡会→次年度も開催 年3回(①5又は6月は報酬改定について、②9又は10月③1又は2月) ・課題調整会議→基幹相談支援センター立ち上げに伴う仕組み作りに協力していく。
第7回	第2回高齢・障害ネットワーク会議	<p>2月20日(火)</p> <p>16時~</p> <p>はあとびあ原宿</p>	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス(自立支援給付)から介護保険サービスへ移行が予測される話題提供をもとにグループワークを行い、障害・高齢部門のそれぞれが認識を高め、課題の確認や対応を検討していく。